

カルメル  
**霊性センターニュース**



聖母子(キリストの降誕)部分

## 「100%のコミュニケーション」

カルメル会 中川 博道

先日、ある心理学者の“人間同士のコミュニケーションにおいて、人が伝え合うもの”についての研究結果を読みました。身振りや顔の表情などいわゆる「ボディランゲージ」といわれることで伝わるものが55%、「声の調子」において伝わるものが38%、そして「言葉」そのものにおいて伝わるものが、たった7%という報告です。この数字を見て、人がお互いに対して、“自分が伝えていると思っているもの”と、“実際に伝わっているもの”のギャップの大きさに驚かされました。

同時に、もしかしたら書かれた文字としての聖書の「言葉」も、“神であるお方の生きた現実”の7%しか伝えていないのではないかと思えてきました。

ヨハネは、福音の中で「イエスのなされたことは、このほかにも、まだまだたくさんある。わたしは思う。その一つ一つを書くならば、世界もその書かれた書物を収めきれないであろう。」(21章25節)と言って、いわゆる「言葉」だけでイエスとの出会いの体験を伝えることの限界を表しています。

言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。(ヨハネ1章14節)

ヨハネは更に「初めからあったもの、わたしたちが聞いたもの、目で見えたもの、よく見て、手で触れたものを伝えます。」(1ヨハネ1章1節)と言います。

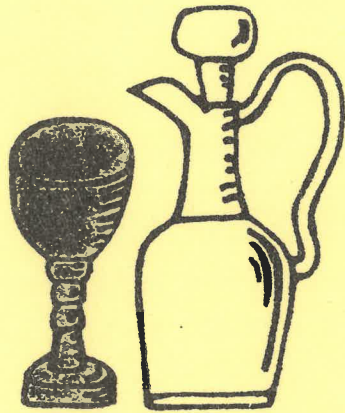
イエスの誕生の出来事には、わたしたちが信仰の中で、そのいのちに触れ、そのお声を聴き、ぬくもりとしてイエスを体験することへの招きが隠されています。

人となられたお方の生涯を注意深く思い巡らすこと、文字として聖書を読むのではなく、生きたお声に耳を傾けること、その見つめておられる眼差しを見つめること。そして何よりも人となられたお方が、ご自分との直接の出会いの場として定められたミサを味わうこと。クリスマスとは「キリストのミサ」といわれます。ミサにおいて人となられたみ言葉であるお方が、食べられるものとなって、直接味わうことのできるものとして、私たちに語りかけられます。きっと、クリスマスは、心の耳を澄ませ、心の目を凝らす人にとって、イエスとの100%のコミュニケーションの場となっていくのでしょう。

マリアはこれらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた。(ルカ2章19節)

皆様、よい降誕祭と新年をお迎えください。

心の泉

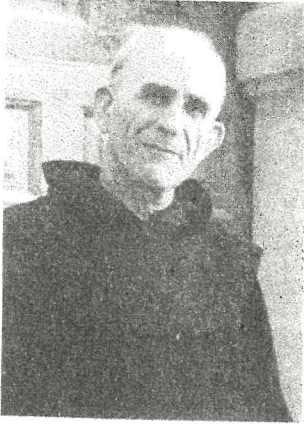


泉の心



## 幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父 ocd

——現代の十字架の聖ヨハネ——



神への歩みに

私のみじめさは 邪魔になりません

私たちのうちに刻まれた傷さえ

神の光のうちに

光の源となりうるのです

——幼きイエスのマリー・エウジェンヌ ocd

ひとたび歩み始めた神への道のりでは、登れば登るほど自分の貧しさ、みじめさ、弱さを感じるようになります。もう断念したほうがよいのではないだろうか。しょせん、わたしには無理だ。そういう思いにかられた時の自分のみじめさの体験こそ貴重なのです。マリー・エウジェンヌ師は言います、

「自分の弱さ、小ささの中で神に信頼するとき、弱さから受ける傷は光の源となる」。弱さ、みじめさに閉じこもらないで神の光に自分をさらすなら、神の慈しみの愛を輝きだすことができるのです。

『いのちの道』(サンパウロ社) より

福者三位一体のエリザベット帰天百周年は終わりましたが、私たち一人ひとりはいからエリザベットの「神の現存への信仰」をさらに深めていくよう日々の生活の中で招かれています。そしてその靈性がより多くの人々に知られるようエリザベットの列聖を願ひましょう。

はからずも、来年はで現在列福を待つカルメル会士、幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師の帰天四十年を祝います。師はカルメルが生きようとする理想、祈りにおける神との親しさは「洗礼の恵み」に基づいていること、それゆえにカルメル会の精神と教えを生活様式とは関係なく多くの人々に伝えたいと望んでいました。フランスとローマでカルメル会の重責についているときにも師のこの熱意は冷めることはなく、その望みは師の代表作『私は神を見たい』と在俗会「ノートル・ダム・ド・ヴィ」の創立として実現しました。

帰天四十年にあたり、「現代の十字架の聖ヨハネ」と呼ばれる師の言葉を毎月お届けたいとおもいます。

伊従 信子

断想（208） 若き日のノートより

奥村一郎

キリストよ、なぜあなたは 今 霧のように  
私の心から 消えていったのか。

あなたが 霧のように 白く見えていたとき  
それは 本当のあなたでは なかったのか。

あなたは、朝の太陽のように 霧をなくし、明るい昼の光も  
山の彼方に残して 夜の闇に消えていく あの夕陽のように、  
私の心の中に現れては消え、消えては現れる。

キリスト神学の言葉を頼りに、細道をたどりつつ  
あなたのあとを追っていく 自分の貧しさを  
ときによろこび ときに悲しみながら。

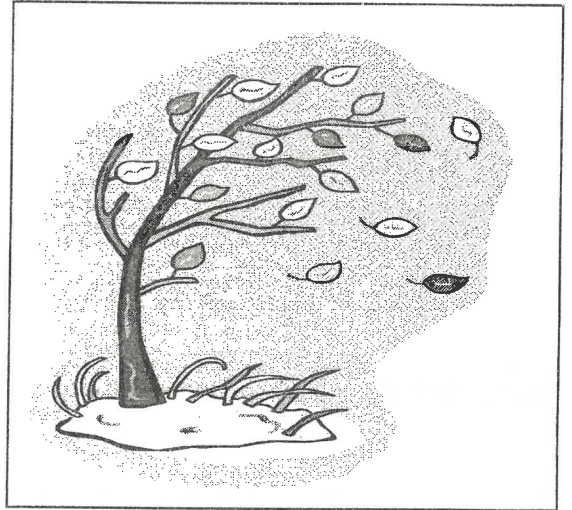
十牛図の「尋跡」というところには、  
言葉や、師や、書物は、真理の見跡とある。

まことに、山道をふみ分けていく思いに、  
しみじみとした 疲れと よろこびを、  
神学をすることのうちに見る。

「信仰とはなにか」、「生きるとはなにか」  
この二つの問いが 一つのものであることが分かるまでに  
信仰の深味がみたい。

# ヘンリ・ナーウエンの 『旅路の糧』

(94)



## 歳をとることへの挑戦

期待の内に忍耐強く待つことは、歳をとるにつれて、必ずしもやさしくはなるとは限りません。反対に、歳をとるとともに、毎日のマンネリ化した生活の中にとっぴりとつかり、こうつぶやくようにいざなわれます。「そう、私はもうすべてを見た。…太陽の下、何も新しいものはない。…のんびりと、毎日、なるがままに生きるだけだ」と。しかしこうして、私たちの生活は、創造的な緊張感を失ってしまうのです。私たちはもはや何も新しいことが起こることを期待しなくなります。私たちはシニカルになるか自己満足に陥るか単純に退屈するかのどちらかとなります。

歳をとることへの挑戦は、これまで以上に大きな忍耐とこれまで以上に強い期待をもって待つことです。熱い希望を持って生きることです。それはまた、キリストを通して「私たちが神の恵みへと導きいられ、…神の栄光を大きな喜びをもって待ち望んでいる」(ロマ5:2) ことを証しすることでもあります。

(1122)

## 私たちの目の前にある美と善を見ること

私たちは、私たちが探している宝を見つけるために遠くへ行く必要はありません。私たちがまさに今いるところに美と善があるからです。すぐ近くにある美と善を見ることができる時のみ、私たちはあちこち旅をしたとしても、美と善を認めることができるのです。心を喜ばせる木々や花々、感嘆すべき絵画や彫刻があります。とりわけ、ほほえみ、共に遊び、親切や優しさを示してくれる人々がいます。それらはみな私たちの周りに、感謝をもって受け取られるべき自由な贈り物であり、そのようなものとして私たちに認められるために存在しているのです。

誘惑は、私たちの周りにあるすべての美と善を、自分の計画のために使うことができる有益な情報として集めようとすることです。しかしその時、それらを楽しむことはもはやできなくなります。そこで私たちはすぐに、自分自身を取りもどすために休暇を必要とするようになるのです。私たちが善と美をどこかに探しに行く前に、私たちの目の前にある善と美をよく見るようにしましょう。

(0214)

くのり  
九里 彰訳

# 『必要なことは、ただ一つだけ』(19)

ルドルフ・V・デ・スーザ OCD (カルメル会)

## 黙想と分かち合いのための質問

1. あなたは十全に生き生きとしていますか。
2. あなたの生活の中で多くのものが死んでいると、あなたは感じていますか。
3. あなたは過去、何かに夢中になりましたが、今は意気消沈していませんか。
4. あなたは子供か赤ちゃんであった時、どのようにすべてを楽しんでいたかに気づいたことがありますか。
5. あなたは木や花を見、それらがどれほど満ち足りているかに気づいたことがありますか。
6. 生き生きとすることは、あなたの生活を命で満たすことを意味しています。

## 5. 祈りの習慣をつくること

かつて年配のご婦人が、自分の祈りの問題を即座に解決しようと、私に近づいてきたことがあります。この点に関して、彼女は過去15年来、苦しんできたからです。初め、彼女は毎日一二時間の祈りを十分楽しんでいました。今、彼女は祈ることが難しくなっています。私は、祈りに関する私のセミナーや黙想会において、一所懸命努力しているにもかかわらず、祈ることができないという多くの人々に出会ってきました。彼らは祈りの旅路において迷路に入り込んでしまったかのようなのです。「私はもう祈ることはできない」と彼らは言います。

この講話では、祈りを体験するための二三の具体的なステップを挙げてみたいと思います。願わくは、これを読む人々が、祈りの問題から多少なりとも解放されますように。



まず最初に、私たちは、霊、精神、感情、感覚、身体といったさまざまな機能、ばらばらの部分の集合ではないということを心に留めておく必要があります。私たちは、統合された一人の人間だということです。私たちの存在の一部に影響するものはみな、私たちの存在全体に影響するのです。意識的にそうすることを選択しようとしまいと、私たちはしばしばさまざまな目的のために、私たちの存在の異なった部分を特に使用します。知性は、その考えを表現しようと、あらゆる明確な語句によって、またそれらの言葉を越えて、絶対者を探求します。意志は、どのような仕方ですれが成就しようとも、常に神的なものへのいやしがたい渴きの現れです。すべての人間の愛には、無限なものへと向かう動き、自分を超越し、自分を全面的に放棄しようとする欲求があります。この傾きを否定し、人間の生を有限なこの世のものに限定しようとするあらゆる企ては、失敗するように定められています。なぜならそれは、或る意味で、人間本性と、また神そのものと戦うことだからです (cf. 1 コリ 6 : 19)。それゆえに、祈りをイメージや想像力だけで何かをすることであるとか、知的に私たちの思考とたわむれることであるとする時、祈りは私たちの生活に何の変化ももたらさないのです。極言すれば、祈りを「何かをすること」と捉えるならば、私たちは祈りに失敗するのです。そうではなく、祈りは生きることそのものなのです。

私はここで、祈りを決められた時間の祈りに限ることなく、さまざまなレベルを通して、私たちの全存在をもって、一日中、祈りを体験してゆくために、単純な解決策を提示いたします。私の分類は次のようなものです。

i) 祈りの時間の能動的祈り ii) 公式の祈り以外の能動的祈り iii) 祈りの時間の受動的祈り iv) 公式の祈り以外の受動的祈り この分類は、一つのレベルが他のレベルと明確に分かれているようなものとして捉えられるべきではありません。それは単に、いつも限界なしに祈るための方向づけとして役立つにすぎません。

(続)

くのり  
九里 彰訳

待降節第一主日

「あなたがたは、・・・人の子の前に立つことができるように、  
いつも目を覚まして祈りなさい。」

(ルカ 21 : 25-28、34-36)

待降節の第一主日、教会の暦では元旦に当たる今日から、主の到来を待つ時期、すなわち、ベツレヘムの幼な子の到来を喜びをもって思い起こしながら、主の再臨を待ち望む時期が始まります。待降節は、約束、愛、準備、警戒、思いめぐらすこと、祈り、新しい始まり、そして成就などをその内に含み、イエスの到来を喜びをもって待つことを記念します。すでに到来し、今到来し、いつか到来する神を待つという特殊な待ち方です。救い主であるキリスト、神の独り子である主イエスを待つことです。悔い改めが求められる時期であると共に、希望と期待に満ちた時期でもあります。

今日の福音では、イエスは、従う者に思い出してほしい点を二三強調しています。一つは、世の終わりの出来事の時期は、予測できないということです。もう一つは、第二の到来は、時が来れば、全宇宙に知られるということです。イエスの「人の子」という表現は、栄光の内に来られる第二の到来のことを指しています。雲に乗って来られるという事実は、イエスのご変容とご昇天に見られる、共に雲に覆われる場面につながっています。最後にイエスは私たちに警戒するように告げます。注意なさい、目をさましていなさい、祈りなさいと。

今こそ、「目を覚まして祈るべき」時であって、祈りは、すべてをそのふさわしい展望のもとで見るように私たちを助け、神の現存へと私たちの目を開き、また困難や苦しみのただ中においても私たちの心に平和をもたらしてくれるのです。今こそ、真にキリスト教的な仕方で愛し合い、分かち合うべき時なのです。神が人間とされた時、神は私たちを、神ご自身とばかりでなく、私たち人類の仲間ともすばらしい関係へと導き入れてくださったからです。今こそ、主に仕え、主に希望を置く時なのです。あなたは、外国の空港で、あなたの愛する誰かが乗っている飛行機の到着を待ちわびたことはありませんか。いつ果てるともない遅れの後、あなたの愛する人が現れるのを見、再会の喜びに満たされることは、何と心がときめくことでしょうか。・・・同様に私たちは、待降節の間、大きな期待をもって、私たちの毎日の生活の中に主が来られるのを待つのです。この待っている時期に、私たちは個人的生活の中で、世界の終わりを、たとえば近親の者が亡くなった時とか、結婚が破綻した時とか、仕事を失った時とか、深刻な病気にかかった時に、体験するのです。それらすべては、私たちの個人的世界を土台にいたるまで揺り動かすのです。けれども、このような悲しみや苦悩の時でさえも、私たちは「身を起こして頭を上げる」ように呼ばれているのです。主の到来が近いからです。

(Sr.Paulina)

## 待降節第2主日

## 洗礼者ヨハネ

今日の福音は、洗礼者ヨハネが登場する場面である。ヨハネは預言者エリヤの精神を持って人々の前に現われた。マラキ書の3章23節に「見よ、私は大いなる恐るべき主の日が来る前に、預言者エリヤをあなたたちに遣わす」とある。洗礼者ヨハネがこの預言を成就した。彼は悔い改めの洗礼を宣べ伝えた。これは同時に、「主の道を整え、その道をまっすぐにせよ」と叫ぶ声があるとのイザヤ書の預言の成就でもあった。

エリヤの出現する直前は、バアル神の信仰が大々的に広められ、主ヤーウエの祭壇が破壊され、その預言者は皆殺されるという大変な危機の時代であった。エリヤは、バアルの預言者たちと祭壇の薪に祈りで火をつける競争をし、彼らに勝ち、殺してしまう。しかしすぐに、王妃に命を狙われ、逃げざるを得なくなる。そして、ホレブの山で神に出会い、三つの使命を与えられる。そのうちで最も重要だったのが、後継者エリシャを召しだし、預言者の集団を作ることであった。そして、預言者を通して、イスラエルに信仰を回復することであった。神は、エリヤに「私はイスラエルに七千人を残す。これは皆、バアルにひざまずかず、これにくちづけしなかった者である。」と約束した（列王記上19章18節）

エリヤは、「万軍の神主に情熱を傾けて仕えてきました」と神に申し上げることのできる人だった。その情熱は、神以外何も求めないというもので、着る物も毛皮を着て腰に革帯を締めるだけだった。洗礼者ヨハネについては、さらにいなごと野蜜を食べていたとある。荒野で手に入るものだけで、衣食をまかなうという姿勢が読み取れる（エリヤの時は、大干ばつのゆえにいなごと野蜜も手に入らず、神から奇跡的な手段で養ってもらわなければならなかった）。神のみに頼る生き方、真にそれをする人々は、世の中を変え、歴史を動かすことができる。しかしその前にまず、神に背いていたことを認め、悔い改めなければならない。それも自分ひとりで隠れたところで悔い改めるのではなく、ふさわしい人に悔い改めの言葉を言い、聞き届けてもらわなければならない。そして悔い改めにふさわしい実を結ぶことである。そうすれば、バアルに膝を屈しなかった七千人のように神に仕える人々が用意される。

洗礼者ヨハネは、こういう神の言葉を聞き、荒野から出て人々の前に現われた。その顔は神の言葉を聞いた人の輝きに満ちていた。

待降節第三主日

「私たちはどうすればよいのですか」

(ルカ 3 : 10-18)

今日は、長い間、「喜びの主日」と呼ばれてきました。今日の福音は、先週の洗礼者ヨハネの部分の続きです。イエスの公生活の始めに、ヨハネはイエスがメシアであると宣言しました。このため群集は、—— 私たちもイエスに出会った時、たずねねばならないでしょうが——、「私たちはどうすればよいのですか」とたずねることになります。

群集に対するヨハネの答えは、食べ物や着る物を分かち合うという愛の問題と関連しています。今日、世界の人口の半分が毎晩、空腹のまま、それどころか飢えに苦しみながら床につき、持てる者が持たない者と大概クリスマスの時だけ着る物を分かち合っていることを考えると、彼の答えは今なお妥当することでしょう。

人々の間には、新しい時代や奇跡を期待する雰囲気がありました。実際、彼らには、ヨハネその人がメシアであると考え多くの理由がありました。想像を絶する著しい厳しさ。突然、荒れ野に姿を現したことやその力強い声など。いつものように正直でまっすぐなヨハネは、すぐに自分がメシアであることを否定しました。彼の洗礼は水によるものでした。それは予備的なものであって、内的な悔い改めの外的なシンボルにすぎませんでした。来るべきメシアは、彼をはるかに超えた方であり、ヨハネは自分を、その方の履物のひもを解くという、僕の仕事をする値打ちもない者とみなしていました。これに対し、イエスが行なう洗礼は、聖霊と火によるものです。ヨハネにとって、それは清めの力のイメージです。

洗礼者ヨハネの言葉は、私たちすべての者にとって非常に適切なものです。私たちは皆、多かれ少なかれ徴税人や罪人だからです。彼らにはそれを認めるすなおさがあったので、メシアを迎えるにはどうしたらよいのかとヨハネにたずねました。私たちも、クリスマスに心からキリストを迎えようとするならば、どうしたらよいのかを、今日たずねましょう。答えは、福音の言葉の中にあります。私は仲間の者に対し、公正で愛深い者でしょうか。この世における真のキリスト者とは、パンの生地を健康によい食べられるパンに変える酵母なのです。私たちは、そのような酵母であり得るし、そうでなくてはならないのです。以前、エイズ患者のために宿泊施設を始めた或る司教が、なぜそのような人々の世話のために、彼らの多くはカトリックでもないのに、お金を使うのかと問われました。司教はこう答えました。私たちが、そのような抑圧され苦しんでいる人々を、彼らがカトリックだから助けているのではありません、私たちがカトリックだからですと。

(Sr.Paulina)

## 待降節第4主日

## 「胎内の子が喜んで踊りました」

(ルカ 1:44)

大天使ガブリエルのお告げを受けた聖母マリアは、すぐにアインカレムに向かった。マリアがザカリアの家に入り挨拶すると、エリザベトの胎内の子が踊った。エリザベトは、マリアが聖霊によってみごもっていると直感的に悟り、その喜びを胎内のヨハネが感じ、喜び踊ったのである。なんと麗しい光景であろう。ヨハネは胎内にいるときから主イエスに祝福され（教父のなかにはヨハネがこの時に原罪の汚れから清められたという人もいる）、生まれてからも母の豊かな愛と、父ザカリアの適度に厳しい父性愛に育まれ、最高の環境の中で、当時としては最高の教育を受けたはずである。

私の修道院の近くに京都医療少年院という施設があり、時々この高い塀のそばを通ることがある。これはいったい何をする場所かとかねて疑問に思っていたのだが、神戸の酒鬼薔薇事件の少年が本来はここに収容されるはずだったが、京都は近すぎるという理由で関東医療少年院に送られたと事情通の人に教えられ、年来の疑問が解けた。ここに働く精神科医が近年、優れた本を何冊も出しておられ、現場からの問題提起に教えられることが多い。彼によると、酒鬼薔薇事件以来、普通の家庭の普通の少年少女が異常な事件を起こすようになってきた。しかし、生育歴を見ると胎児のときから、十分に愛されていないとか、あるいは溺愛と遺棄が并存しているとか、問題のあることがわかるそうである。これは少年事件ではないが、大阪教育大付属池田小学校で起きた8人の児童殺害事件を見ると、犯人がまだ胎児だったとき、母親は中絶したいと思っていたそうである。生まれてからも祖父母に4歳になるまで預けっぱなしであった。彼は高いIQを持ちながら、それを生かすための何かが欠けた問題児として育った。そしてそれを解決できないまま大人になり、犯罪を繰り返し、ついに大事件を起こすに至った。洗礼者ヨハネとなんといい違いだと思ってしまう。人生はとてつもなく不公平にできている。犯人はヨハネと正反対に、母の胎内にいたとき泣き叫んだことだろう。

しかしながら、生育歴とか素質ですべてが決まるわけではない。温かくかつ厳しく、本気になってかかわってくれる人が、若いときにいてくれたら人は変わることができる。考えてみると、洗礼者が悔い改めの洗礼を宣べ伝えたということは、現代風に言うと問題を抱えて生きている人と本気になってかかわったということであろう。ルカの3章10節から14節を見るとそれがわかる。ヨハネは、多く任された者はさらに多くを要求される（ルカ12章48節）ことを知っていた。彼は自分の責任を果たした。人生は、ハンディを嘆くことなく、自分のなかのよいものを伸ばし、神から与えられた「わずかのものに忠実である」（マタイ25章21節）かどうかにかかっているのだろう。その忠実さがヨハネを殉教にまで導いた。イエスに出会った喜びの結末が斬首であった。しかしおそらく彼は満足して殺されていったことだろう。

(とます)

## 聖家族の祝日

「どうして私を捜したのですか。私が自分の父の家にいるのは当たり前  
だということを、知らなかったのですか。」

(ルカ 2 : 41-52)

今日の福音のエピソードは、神殿の中にいる少年イエスを発見するという物語です。この物語は、イエスが他の少年たちのようであったのかという問いを、私たちに惹き起こします。イエスの両親が毎年過越祭のためにエルサレムに行っていたということは、彼らがきわめて敬虔な人々であったことを示しています。マリアとヨセフがイエスを見失ったことは、不注意から起きたことではなく、ヨセフはイエスがマリアと共にいると考え、マリアはマリアで、イエスがヨセフと共にいると考えたからです。

過越祭の期間中、宗教的な問題について、関心のあるすべての人が集まり、公開で討論する習慣がサンヘドリンにありました。ラビたちは椅子に坐り、その足元には彼らの弟子たちが床に直接坐りました。イエスは、熱心な学生ように知を求め、彼らの言葉に耳を傾け、質問をしていました。少年イエスを発見した時、マリアは彼に言いました。「お父さんと私は大変心配しながら、あなたを捜していたのですよ」。イエスはマリアの非難から上手に「父」という言葉を取り出し、神へと転用しました。「私が自分の父の家にいるのは当たり前だということを、知らなかったのですか」。イエスの家族生活の中心に、またその司牧の中心に、かけがえのない一人のお方、すなわち彼の父である神がいます。その関係は、イエスにとって、彼の人生において最も重要なことなのです。結局それが、彼を導き、励まし、受難と死において彼を支えることになるすべてなのです。

両親に対するイエスの言葉は、彼らに対するあまりふさわしくない独立を示しました。けれどもルカは、両親に対するイエスの従順 (51)を強調しています。イエスがたとえ神との自分の特別な関係について知っていたとしても、それは自分の両親、——優しいマリアと勤勉なヨセフ——を見下げるようなことにはならなかったでしょう。これが記録されているイエスの最初の公けの発言であり、それはまた、自分が何者であるかを知るようになったことを明らかにしています。自分が他人とは異なったユニークな者であることを知ったのは、いつだったのでしょうか。イエスは歳をかさねるにつれて、絶えず、より大きな恵みと知恵を現しました。神としてイエスは、無限の知を持っていました。人間として彼の精神は、経験に基づく知において進歩しました。成長は人間存在の一部分であり、イエスはその十全の可能性を実現したのです。

教会は、この日曜日をナザレの聖家族の祭日として、ご降誕の八日間の中に定めました。それは、すべてのキリスト教徒の家庭が、地上にかつて存在した家族の中で最も聖なるこの家族にならうよう望んでいるからです。どの家庭も、聖家族ほど完全になることを望み得ませんが、それに似るように絶えず努力しなければなりません。

(Sr.Paulina)

## …ケリトの水にうるあされて…

カルメルの聖人たちの祈り

### 13. イエスの聖心の聖テレジア・マルガリタ (1747-1770) — その1

アンナ・マリア・レディは1747年イタリアに生まれた。幼少の頃から孤独を求め、既に天に上げられているかのように目を上げている様子が見られた。9才まで自宅で暮らした後、ベネディクト修道女会の寄宿舎に入った。そこで霊的指導を受けるようになり、自分の召命を理解し始めた。1763年にはっきりしたカルメルへの召し出しを受ける。「私はイエスのテレジアです。私の娘におなりなさい」と。1764年によくカルメルへの入会が実現する。カルメルにおいて、彼女は、その人となりから輝き出る謙遜、従順、英雄的愛徳、完全な喜びのために知られていた。

#### —— 祈り ——

おお、私の神よ、あなたを愛し、あなたにお仕えるために、私を造ってくださったことを思いながら、私は、あなたが私をお導きになる道を、あなたの意にかなうように従うために、私自身の傾きを放棄する決心をいたします。私は従うためにいつも全力をつくします。私の神よ、はるかに困難な状況にあって、私のために従順な者となられたあなたから学ぶことができますように。

私の神よ、私はあなたの完全な似姿になること以外には、何も望みません。あなたのご生活は、辱めと愛と犠牲からなる隠れた生活でしたから、私の生活もそうであるように望みます。砂漠にいるように、最も愛に満ちたあなたのみ心のうちに、私自身を封じ込めることを望みます。それは、私があなたのうちに、あなたとともに、あなたのために、愛と犠牲からなるこの隠れた生活を生きることができるようになるためです。

おお私の主よ、あなたの聖心のいけにえとなり、聖なる愛の火によって全く焼き尽くされたいという私の大きな望みを、あなたはご存じです。あなたのみ心が、私を焼き尽くす供え物として献げる祭壇となり、あなたが、このいけにえをあなたの燃える愛の炎によって焼き尽くす司祭となってくださいますように。

私の神よ、自分がどれほど値打ちのないいけにえであるか、私があなたに受け入れていただきたいとお願いするこの犠牲がどれほどふさわしくない物であるかを見ると、私はどれほど混乱を感じることでしょう。けれども、私は、神聖な愛の火によってすべてが成し遂げられると信頼しております。

私の神よ、私があなたの御助けをどんなに多く必要としているかを、あなたはどれほど良くご存じなのでしょう。私は、あなたの限りないいつくしみに信頼いたします。どのような霊的状态にしようとも、いつも信頼いたします。いつでもどこでも、私の目には矛盾や不確かさしか見えないときであっても、すべての事がらのうちにあなたのご意思を認めるよう努力します。私は自分自身に頼ることができないことを知っています。ですから、私はあなたに完全に信頼いたします。「何もかも、キリストの愛から私を引き離すことはできない」のです。おお、主よ、あなたのうちに私は希望を置いたのですから。私は、決してこの希望をくじかれることがないでしょう。

すべてのことにおいて、私は満足いたします。自分が旅している道がカルワリオに導く道であることを私は知っていますから。その道が茨に満ちた道であればあるほど、十字架が重ければ重いほど、私は慰められることでしょう。私は、苦しむ愛によって、自己に捕らわれない愛によって、生き生きとした愛によって、固く、分かれたることのない、堅忍する愛をもって、あなたを愛したいと望んでいますから。……私はあなたに多くのことを約束しました。けれども、怠惰な自分自身の精神に頼ることは、賢明ではありません。私がしなければならぬことについて、あなたは私を照らしてくださいました。今、それを実行することができるようお助けください。このことすべてを、私はあなたの限りないいつくしみから希望しています。

—— 三位一体への祈り ——

あなたに愛と賛美と喜べと栄光が捧げられますように。  
あなたに深い感謝の表現が捧げられますように。  
おお、至聖なる栄光の三位一体、  
私たちの唯一の神よ。



イエスの聖心の  
聖テレジア・マルガリタ

\* \* \* \* \*

この記事は、跣足カルメル在俗者会員ペニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., ホームページ <http://www.ignatius.com>)の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(注)タイトル中の「ケリトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンのあるケリトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは鳥に命じて、そこであなたを養わせる(1列17:3-4)」ということばに由来しています。

(浜田裕子訳・編)



## ある少年に

蛭田 幼一

きみは傷つきやすい気持ちの持ち主だ  
多感な 優しい心をもっている

それがなんだ そんなものは生きて行く上で  
何のたしにもならないと きみは云うだろう

それくらいなら少しくらい悪くたって  
頑丈に生きていったほうがましだと

(それ その真下の竹藪で  
きのうは鶯の鳴く音が聞こえていたぜ)

いいよ 分からぬことは気にしないで  
だがいつまでも傷つきやすい

優しい心を持っていることだな  
いくら呟いても 目をつけられたら終わりだ

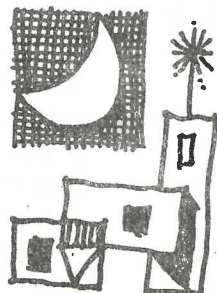
## 天 気 図

ある朝、バス停で一番バスを待っていました。早朝なので、車もま  
れにしか通らないし、出勤・通学の人達もまだやって来ません。する  
と突然、頭上の電線からすずめのおしゃべりが賑やかに聞こえてきま  
した。思わず上を見上げると、なる程、嬉しそうに相互に飛び交った  
り、休みながら、喜んでいるのです。その背景の空は、と見れば、ど  
んどん雲が切れて、その合間から明るい朝日が差し込んできているの  
でした。秋の長雨とか……ここ数日、日の目も見られず、うっとう  
しいグレーの雲が頭上を蔽っていましたから、すずめも機嫌よく大喜  
びで友達同士で話し合っていたのでしょう。すずめではない私自身も、  
そんな雰囲気の中で、スカッとした晴々しい明るい心を感じたのでし  
た。心地よさと、何か分からない喜びと希望が、空の雲の切れ目と正  
比例するかのように心中に広がっていくのです。すずめもきっと、そ  
のような気持ちに満たされたに相違ありません。この天気図の<sup>下</sup>での  
小鳥同様、私たちの心も常に晴れ晴れしていれば、軽くなり、やる気  
十分のエネルギーが湧いてくるものです。しかしこの場合の「心の晴  
れ」は、もう自然現象の晴れに頼ることだけでは解決されないとい  
うことが分かってきました。テレビ・ラジオの天気予報士が、現在  
の天気の状態を解明し、更に未来の可能性を予報するように、私達も  
自分の今現在の心の状態がどういう状態か、もう一人の自分がそれを  
客観的に見ることが出来、その結果それが行動化していくのだとい  
うことを人生の年輪の中である程度意識出来るようになるのは大切な  
ことではないかと思うのです。大人、つまり人生（人間関係）を長く  
やってくれば、付き合う相手の反応がどんな時にどうなっていくか、  
どうなるかということを、ある程度感じるようになることは大切なこ  
とでしょう。たとえば相手から嫌な言動を感じた場合、それを口に出  
すかどうかは別として、心中で批判している自分を客観的に見ること  
は大切です。相手方の発言・行動の善悪を診断することが必要な時  
もありますが、それだけで済まさないで、その状況から動かされたマ  
イナスの自分の心の状態を見ることも大切と思います。つまり天気図  
で言えば、低気圧の状態を天気予報士のように、自分が客観的に見て

とる、ということです。例えば今、自分は怒っているんだとか 不愉快なんだ というように…… 心の状態をいつもお天気にしておきたいのは、誰かれ皆の望みです。しかし、人生を生きていれば、高気圧と低気圧が入り交じってくる天気図が展開されるのは必然のことです。低気圧の到来を防ぐには、ガマンだけでなく、その人に合った精神衛生が必要でしょう。(それは人によって違いますが、例えばテレビのあの番組を見るとか、読みたいと思っていた本を読むとか、おおげさでなく迷惑をかけないで自分を楽ませる方法は、必ずあるはずです) そのように自分の自然性に呑み込まれずに、なるべく高気圧に場をゆずるのがいいのですが……でも何といても「神がこの世に降られ、まことの人間になられたイエス・キリストが受けられた受難と、十字架に向かったの「生き方」(すなわち死)こそが、私たちの血肉となる最高の道なのだ」ということがひしひしと感じられる歳になってきたのかな と思うこの頃です。

お告げのフランシスコ姉妹会

Sr. 熊田 照子



# いのちの言葉 11月

義に飢え渴く人々は、幸いである。その人たちは満たされる。

(マタイ5・6)

普通「正義」と言うと、人権の尊重や平等の追求、正しい富の分配、また法律遵守を推進する組織などが思い浮かぶことでしょう。

イエスが「山上の説教」の中で語られた「義」も、そうした意味を持つのでしょうか。それもありますが、むしろイエスの義は、より広い正義の実りとして生まれます。それは、和やかな関係や雰囲気、平和をもたらず正義です。

「飢え」や「渴き」は、人間の基本的要求であり、ここでは、人の心の奥底にあって、完全には満たされることのない渴望を表現しています。ルカ福音書によれば、イエスは「今飢えている人々は、幸いである」<sup>1</sup>と言われました。またマタイは、人間の飢えとは神に飢えていることであり、神だけが人の心を完全に満たすことができになる、と説明しています。これは、聖アウグスチヌスも深く理解したことであり、彼の著作「告白」には、次の有名な言葉が記されています。「あなたは私たちを、ご自身にむけてお造りになりました。ですから私たちの心は、あなたのうちに憩うまで、安らぎを得ることができないのです。」<sup>2</sup>

イエスご自身「渴いている人はだれでも、わたしのところに来て飲みなさい」<sup>3</sup>と言われ、イエス自ら、神のみ旨を食物として<sup>4</sup>おられました。

聖書学的には、正義とは、人類に対する神のご計画に従って生きることを意味します。神は、人間が一つの家族のように愛し合い、一致するよう、お考えになり、お望

みになりました。

義に飢え渴く人々は、幸いである。その人たちは満たされる。

正義の望みと探求は、人の良心に本来記されているもの、神ご自身が人の心に据えられたものです。しかし歴史をふりかえってみると、多くの進歩や発展があったにもかかわらず、神のご計画の完全な実現は、まだほど遠いと言えるでしょう。今日も、戦争やテロ、部族闘争が絶えませんが、これらは、社会経済の不均衡や不正、憎悪の表れです。

調和ある人間生活を妨げるのは、社会生活を維持するための法律不足といった、法的秩序の問題だけではありません。むしろ、より深い倫理的精神的態度に関わることで、私たちが人間にどれほどの価値を与え、人間というものをどう考えるかにかかっていることです。

経済秩序についても、同様のことが言えます。発展途上諸国の深刻な状況、貧富の差、不平等な富の分配は、ある種の生産システムに起因するだけでなく、何よりも、私たちがどのような考え方や政治的選択をするか、という人間そのものに関わる問題なのです。

上着を取ろうとする者には下着も与え、一ミリオン行くように強いる者とは二ミリオン一緒に行くようにと招かれる時<sup>5</sup>、イエスは私たちに「より多く」を求めておられます。それは、「より大きな正義」であり、単なる法律の実践を越える正義、すなわち「愛の表現である正義」です。

<sup>1</sup> ルカ 6・21 参照

<sup>2</sup> アウグスチヌス「告白」第一巻一章一節

<sup>3</sup> ヨハネ 4・34

<sup>4</sup> ヨハネ 4・34 参照

<sup>5</sup> マタイ 5・40-41 参照

愛や相手への敬意、心遣いなしでも、正しい人間関係は築けるかもしれませんが。しかしそうした関係は、形式的なものに終わり、相手が必要とすることを解決するには至らないでしょう。愛がないなら、決して真の正義はなく、裕福な者と貧しい者との富の分かち合いも生まれません。また、兄弟一人ひとりのかけがえのなさを意識し、各々が背負っている状況に心をかけることもできません。富は、ひとりで動くことはありません。まず人々の心が動く必要があり、心が富を動かすのです。

**義に飢え渴く人々は、幸いである。その人たちは満たされる。**

では、今月のみ言葉を生きるには、どうすればいいでしょうか。

兄弟を、その本来の姿で見ることです。すなわち、万人に共通の権利と基本的平等を持つ存在というだけでなく、その人の中にはイエスが生きておられることを思い起こしましょう。

ですから兄弟を愛することです。たとえ相手が敵であっても、父なる神がその人を愛しておられる同じ愛で、愛するよう、私たちは招かれています。「自分の兄弟のために命を与える」<sup>6</sup>という最高の犠牲を捧げる覚悟も求められるでしょう。

私たちが兄弟と互いに与え合う関係を生き、霊的・物質的富を分かち合うなら、皆が一つの家族になるでしょう。

こうして、神が望まれるような正しい兄弟的な世界が実現するでしょう。神ご自身が私たちの間に住まれ、ご自分の存在で私たちに満たして下さるでしょう。

**義に飢え渴く人々は、幸いである。その人たちは満たされる。**

ある人の職場での体験をご紹介します。「少し前に、私の会社は、同系列の会社と合併しました。合併後の職場では、三人が解雇されることになり、私は社員リストの見直しをするよう命じられました。

しかし私には、この要請が正当な理由に

基づくものとは思いませんでした。むしろ、解雇に遭う人たちやその家族への影響がまったく考慮されておらず、性急な対処だと感じました。どうすればよいかと考えながら、私はいのちの言葉を思い出しました。私に与えられた唯一の方法は、イエスがされたように生きること、すなわち、自分から先に愛することでした。私は辞職願いを提出し、三人の解雇要請に自分は応じられないと伝えました。

私の辞職願いは受理されず、むしろ会社側は、新しい職場体制にどう社員を組み込めばよいか、意見を聞きたい、と言ってきました。私は準備していた新しい人事計画を提出し、柔軟性と有益性をもって皆が様々なポストに入る可能性を示しました。この計画は受理され、社員全員が仕事を続けることができるようになりました。」

キアラ・ルービック  
(2006.11)

★ いのちの言葉はその月の主日のミサで朗読される聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

職場で年間の有給休暇の申請をしたところ、「ポツポツととるのは許可しない。まとめてるように」と回答が来ました。正当な理由はないので、有給の手続きをする人が、自分の仕事を減らしたいので横やりを入れた、と分かりました。不当な扱いを受けたことが悔しく、かといって立場上甘んじて受け入れるしかない状況の中で、「敵を愛する」が心に浮かびました。なかなかこのイエスの言葉を自分のものにすることができませんでしたが、同じ精神を生きる同僚のメールに励まされ、この敵を愛する決心をしました。その人と仕事で会ったので、自分から挨拶し、心の中で裁きたい気持ちを捨てて、接しました。イエスのためなら、屈辱ではなく愛を生きたことになる、と感じました。

(東京都・T)

フォコラーレ: 連絡先: 03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail: tokyofocfem@ybb.ne.jp

いのちの言葉のホームページ

<http://www.geocities.jp/focolarejapan/>

<sup>6</sup> ヨハネ・パウロ二世 回勅「真の開発とは」第40項

## あなたを子に持って幸せ

先週、父がすい臓がんで亡くなりました。

わたしは、いつも病気ばかりで、両親には、たくさんの心配や迷惑をかけて生きて来ました。老いていく両親に、本当ならもっと親孝行をしていたりたいのに、何も出来ない自分が嫌になってしまうことがありました。

でも、何年か前に、親不孝な自分が情けない気持ちでいた時、父がこんなことを言ってくれました。

「パパは、ちいちゃんのような娘を持って幸せだ。神様に感謝してる。」

（「ちいちゃん」はわたしの愛称です）

父のその言葉は、自分にとって生涯の宝物になりました。この言葉は、わたしが大きな成功や業績をおさめた時に言われたものではありません。あるいは、父の肩を揉んであげたから言われたのでもありません。むしろ、心配や世話ばかりかけているわたしが、一番みじめで、心身ボロボロで、本当に情けない孤独な病人である時に言われた言葉でした。

『神様って、きっと、こんな風に、みんなのこと、思ってるんだなあ・・・』  
わたしは、父の言葉に、天の御父の面影を見たように感じました。

神様の愛とは、まさにそのようなものではないでしょうか。私達が、罪を犯したり、世間に蔑まれたりして、自分などいてもいなくても同じに思えたりする時、貧しさと弱さで一杯の時・・・そういう時にこそ、神様は言ってお下さるのではないのでしょうか。

「あなたを子に持って、わたしは幸せ」と。

天にも地にも、このように言ってくれる父を頂いた自分の幸せを感謝したいです。でも、この幸せを味わったことのない人が、たくさんいるということを、わたしは知っています。世界中で、数え切れないほど多くの人達が、生涯、神の愛も、親の愛も知らないまま死んで行くということに、深い痛みを覚えます。

僭越かもしれませんが、もし皆さんにお子さん（小さくても大人になっていても）がおられましたら、どうぞ言ってあげてください。その子が病気になってしまった時、その子が何をやっても上手く行かなくて、誰にも認めてもらえなくて、目に見える優れた業を何一つ出来なくて、みじめになって泣いている時にこそ、そういう時だからこそ、どうか言ってあげて欲しいのです。

「あなたを子に持って、わたしは幸せ。神様に感謝している」と。

わたしには子供はいません。でも、人生で出逢うたくさんの人達に言えたらいいなあと思います。

「あなたを兄弟姉妹に持って、わたしは幸せ。神様に感謝している」と。

その人に、何かの才能があるからとか、こういう長所があるからとかいうことでもなければ、わたしによくしてくれるからというのでもありません。ただ神様が、わたしの人生で出会わせて下さったかけがえのない兄弟姉妹として、また、キリストのいのちをその魂に秘めている尊い人として、「あなたを兄弟姉妹にもって幸せ。神様に感謝」という気持ちで接することが出来たらいいなあと思います。そのことが、天の御父と亡くなった父への、ささやかな親孝行になってくれたら、どんなに嬉しいことでしょう！

天にも、地にも、光あふれるクリスマスを前に、御父の声が、世界中に響き渡りますように・・・

「あなたを子に持って幸せ」と。

丸山知佳子

上野毛・宇治

## カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）

聖テレジア修道院（黙想）はカルメルの霊性を体験し、深めたい方のための施設です。  
黙想会、練成会などにご利用ください。個人でも、グループでもご利用いただけます。  
お問い合わせ、お申し込みは、下記へお願いいたします。

158-0093

東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

東急大井町線 「上野毛」下車徒歩7分

611-0002

京都府宇治市木幡赤塚 65

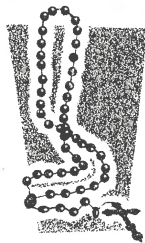
TEL 0774-32-7016

FAX 0774-38-2543

京都駅から JR 奈良線 「六地藏」下車徒歩15分

バス停「町並」（京阪バス）から循環「御蔵山」<sup>おくらやま</sup>に乗り「西住宅バス停」

下車徒歩5分



男子跣足  
カルメル修道会



# カルメル会の企画案内



内案画金の会々々々



# 十字架の聖ヨハネの祭日

## 前晩と当日の典礼へのご案内

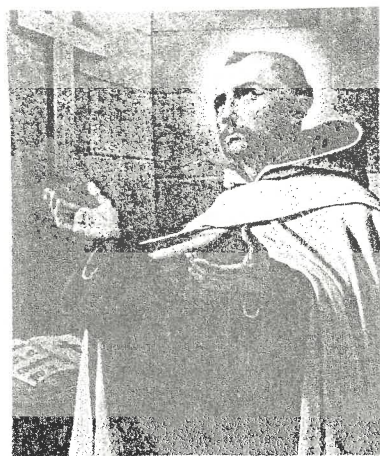
十字架の聖ヨハネは、1542年6月24日？フォンティベロスという小さな村にゴンザロ・デ・イエペスとカタリナ・アルバレスの三男として生まれました。ゴンザロは新興貴族の家柄でしたが、カタリナは貧しい孤児。ゴンザロは貴族の身分を捨て、カタリナと結婚しますが、ヨハネが三歳の時、他界します。残された家族は、さらに貧しい生活を余儀なくされ、家族はメディナ・デル・カンポに移り住みます。

ヨハネは21歳の時、カルメル会に入会。翌年誓願を立て、サラマンカ大学で勉強を続けます。1567年に叙階、その直後、アヴィラの聖テレジアに会い、会の改革を促されます。翌年、ドゥルエロに男子の最初の改革修道院を創立。改革運動を続けますが、1577年には反対派に捕えられ、トレドの修道院の牢獄に閉じ込められます。

その後、改革カルメルの管区長代理等を務めますが、最後は、第二管区長ドーリアによりすべての長上職を剥奪され、ウベダに逗留中、病状が悪化。1591年の12月14日夜中0時に帰天。1726年にベネディクト13世により列聖され、1926年にはピオ11世により教会博士とされます。皆様と共に、私たちの会の霊的父である十字架の聖ヨハネの祭日を祝いたいと思います。

カルメル会上野毛修道院長

くのり  
九里 彰神父



### 前晩12月13日(水)の典礼

19:30 晩課「教会の祈り」 司式：大瀬神父

晩課終了後、沈黙の祈り

20:00 前晩のミサ 司式：大瀬神父

### 当日12月14日(木)の典礼

6:30 早朝ミサ 司式：大瀬神父

10:00 当日ミサ 司式：九里神父

## 上野毛霊性センター '06年12月～'08年3月

A 黙想企画 \*\* 聖テレジア修道院（黙想） \*\*

## 1. 聖書深読（毎回土曜日 夕食～日曜日16時）

12月 9日～10日 松田浩一師

07/ 2月24日～25日 九里彰師

4月14日～15日 九里彰師

7月 7日～ 8日 九里彰師

12月15日～16日 九里彰師

08/ 2月23日～24日 九里彰師

## 一日聖書深読（毎回土曜日午前10時～午後4時）

10月13日 九里彰師

11月17日 九里彰師

08/ 1月12日 九里彰師

3月15日 九里彰師

## 2. 奉獻生活者のための黙想会

12月26日（火）夕食～07/1月4日（木）朝 九里彰師

7月26日（木）夕食～ 8月 4日（土）朝 九里彰師

8月21日（火）夕食～ 30日（木）朝 福田正範師

12月26日（水）夕食～08/1月4日（金）朝 福田正範師

## 3. 木曜黙想会 一般黙想（毎回木曜日10時～16時）

12月21日 幼子の平和 九里彰師

07/ 2月15日 ザアカイの回心 九里彰師

4月12日 テーマ来月号 福田正範師

5月10日 テーマ来月号 九里彰師

6月28日 テーマ来月号 福田正範師

7月 5日 テーマ来月号 九里彰師

10月25日 テーマ来月号 福田正範師

12月20日 テーマ来月号 福田正範師

08/ 1月31日 テーマ来月号 福田正範師

2月28日 テーマ来月号 九里彰師

3月27日 テーマ来月号 福田正範師

## 4. 金曜黙想会 カルメルの聖人（毎週金曜日10時～16時）

07/ 1月12日 十字架の聖ヨハネによる「生きる神との出会いの幕屋」 松田浩一師

3月16日 アヴィラの聖テレジアによる「主の証し人」 松田浩一師

- |     |        |        |       |
|-----|--------|--------|-------|
|     | 4月27日  | テーマ来月号 | 九里彰師  |
|     | 5月25日  | テーマ来月号 | 福田正範師 |
|     | 7月20日  | テーマ来月号 | 福田正範師 |
|     | 9月21日  | テーマ来月号 | 九里彰師  |
|     | 10月 5日 | テーマ来月号 | 九里彰師  |
|     | 11月 2日 | テーマ来月号 | 福田正範師 |
|     | 12月 7日 | テーマ来月号 | 九里彰師  |
| 08/ | 2月 8日  | テーマ来月号 | 福田正範師 |
5. 青年黙想会 九里彰師 神学生  
 07/ 5月4日(金)～6日(日)・・・(4日は夕食を済ませてご参加ください)  
 11月23日(金)～24日(土)・・・受付15時から
6. 召命黙想会(男女) 九里彰師、  
 07/ 4月21日(土)～22日(日)・・・受付15時から  
 11月9日(金)～11日(日)・・・(9日は夕食を済ませてご参加ください)
7. 大祝日のミサに与かるために  
 【クリスマス】・・・チェックイン午後3時、チェックアウト午前10時  
 12月24日(日)～25日(月)《講話、夕食なし》  
 07/ 12月24日(月)～25日(火)《講話、夕食なし》  
 【聖週間を祈る】チェックイン午後3時、チェックアウト午前10時  
 聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能。  
 07/ 4月 5日(木)～8日(日)《講話なし、各食事つき》  
 08/ 3月20日(木)～23日(日)《講話なし、各食事つき》
8. 特別黙想会 伊従信子 (ノートルダム・ド・ヴィ) 夕食を済ませてご参加ください。  
 A【私は神を見たい】・・・聖霊に導かれて 6月29日(金)～7月1日(日)  
 B【私は神を見たい】・・・祈り 10月26日(金)～28日(日)

電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までにお願いします。  
 またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いませんので  
 なるべくFAX・はがき・Eメールでお願いします。(お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

Eメール [mokusou@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou@carmel-monastery.jp)

## B カルメル靈性研究クラス (九里 彰神父) 注意!開始時間変更

\* 十字架の聖ヨハネ『靈の賛歌』

**12月14日(木)** 「第27の歌と第28の歌」 注意!水曜ではありません。

1月10日 「第29の歌と第30の歌」

1月31日 「第31の歌と第32の歌」

2月21日 「第33の歌と第34の歌」

\* アヴィラの聖テレジア『完徳の道』

12月6日 (第34章と第35章)

12月20日 (第36章と第37章)

1月17日 (第38章と第39章)

2月14日 (第40章と第41章)

2月28日 (第42章、全体の分かち合い)

どちらも水曜日夜7:15~8:45まで。テキストを少しずつ読み、解説と分かち合いがあります。今から参加もOKです。上野毛教会信徒会館2階26号室。無料。

## C 祈りの集い (九里 彰神父) 注意!開始時間変更

12月22日 「恐れるな。私は、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。」

1月26日 「この聖書の言葉は、今日、…実現した。」

毎月一回金曜夜7:15分より。上野毛聖テレジア修道院(黙想)小聖堂。都合の悪い場合は、上野毛教会信徒会館ホールで。無料。

7:15~8:15 み言葉と念祷

8:15~8:45 分かち合い(参加自由)

## D キリスト者の信仰の歩み ~キリスト教靈性の初歩~

(松田 浩一神父)

第七回 12月1日(金)

第八回 1月5日(金)

第九回 2月2日(金)

第十回 3月2日(金)

19:00~19:30 初金ミサ (上野毛教会聖堂)

19:40~20:40 勉強会 (上野毛教会信徒会館2階26号室)

\* 参加費は無料。対象はキリスト者としての信仰を深めたい人とキリスト教に関心のある人。持ってくる物は、聖書、筆記用具、ノート。

# 救い主・幼きイエス様への信心

慈しみ深い神を探す若者たちの集い (C.Y.C.)

「今日ダビデの町で、救い主がお生まれになった」(ルカ福音書 2:10) と天使が夜空に現れて、羊飼いに告げた幼きイエス様について、ひと時の黙想を一緒にしてみませんか。

**日時: 12月23日(土)13:30から16:30まで。**

対象: 18歳以上30歳までの青年男女。

スタッフ: 上野毛修道院のカルメル会士たち

場所: カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

東急大井町線 上野毛駅下車 徒歩5分

(地図は裏面をご覧ください)

プログラム:

- |             |                            |
|-------------|----------------------------|
| 13:30~      | 受付開始(13:45~: はじめの祈り)       |
| 14:00~14:40 | 救い主イエス様が生まれてきた意味           |
| 14:40~14:50 | 休憩                         |
| 14:50~15:30 | 私たち生活(霊的歩み)と<br>幼きイエス様への信心 |
| 15:30~16:00 | 青年たちのための祈り・賛美・祝福           |
| 16:00~16:30 | 茶話会                        |
| 16:30       | 解散                         |



参加ご希望の方は、お手数でも FAX または E-mail に住所・氏名・年齢をお書きの上、下記宛に送ってください。当日の飛び入り参加も OK です。直接会場にお越しください。

カルメル会では若者の集い『カルメル・ユース・クラブ』を行っています。カルメル家族に支えられて、イエス・キリストが示してくださった「いつくしみ深い神の姿」を追い求め、その神様に出会おうとする集まりです。この集まりは、家庭的な雰囲気の中で、「隠れている宝」に対する信仰を養っていきます。今後の予定; 2007年1月14日(日)、2月12日(月) 時間はいずれも 13:30~16:30

(連絡先・問い合わせ)  
カルメル修道会カルメル・ユース・クラブ  
(C.Y.C.) 係 松田神父  
〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25  
TEL 03-3704-2171 FAX 03-3704-1764  
E-mail [tokyo@carmel-monastery.jp](mailto:tokyo@carmel-monastery.jp)  
[carmeltokyo@yahoo.co.jp](mailto:carmeltokyo@yahoo.co.jp)



# 上野毛教会 降誕祭ミサの時間

## ★ 降誕祭前夜のミサ

12月24日 (日) 19:30 子どものクリスマスミサ  
21:40 クリスマス・キャロル  
ご一緒にうたいましょう。  
22:00 降誕祭荘厳ミサ  
ミサ後ささやかな祝会  
24:00 深夜ミサ

## ★ 降誕際ミサ

12月25日 (月) 7:00 10:30 (歌ミサ) 18:00

\* 12月24日(日)は、主日ですので、

7:00、 8:30、 10:30のミサを行います。



## 大祝日のミサにあずかるための黙想

### 降 誕 祭

\* 日時：12月24日(日) 夕食なし～25日(月) 朝食後10時まで  
24日(日)は、午後3時より入室出来ます。

講話は、ありません。前夜のミサよりご降誕の主日にかけて  
主イエス・キリストのご降誕を黙想し、静修の時を過ごしましょう。

費用： ¥4000

\* お問合せ、お申し込みは 上野毛聖テレジア修道院 (黙想)

電話：03-5706-7355・Fax.03-3704-1764



\*\*宇治聖テレジア修道院 (黙想)\*\*

1. 聖書深読

① 一泊二日 (午後5時～午後4時)

07/	1月27日(土)～28日(日)	新井延和神父
	3月10日(土)～11日(日)	渡辺幹夫神父
	5月19日(土)～20日(日)	中川博道神父
	7月21日(土)～22日(日)	新井延和神父
	9月15日(土)～16日(日)	中川博道神父
	11月17日(土)～18日(日)	渡辺幹夫神父
08/	3月 8日(土)～ 9日(日)	新井延和神父

② ミニ深読 (午後14時～午後16時)

12月19日(火) 深読スタッフ

07/ 2月13日(火) 深読スタッフ

2. 水曜黙想 (午前10時～午後4時)

	12月13日 十字架の聖ヨハネ	中川博道神父
07/	1月10日 一年の歩み	新井延和神父
	2月14日 聖ヨゼフ	中川博道神父
	3月14日 主の十字架	渡辺幹夫神父
	4月11日 復活	新井延和神父
	5月23日 聖霊	長岡幸一神父
	6月20日 み心	ベルナルド神父
	7月18日 カルメルの聖母	カルメロ神父
	9月19日 エディットシュタイン	渡辺幹夫神父
	10月17日 アピラの聖テレジア	アロイジオ神父
	11月14日 日常の聖性	中川博道神父
	12月12日 十字架の聖ヨハネ	新井延和神父
08/	1月16日 新しくなる	渡辺幹夫神父
	2月20日 聖書の祈り	新井延和神父
	3月12日 主の受難	カルメロ神父

3. 四旬節黙想 (午後5時～午後4時)

07/	3月 3日(土)～3月 4日(日)	新井延和神父
08/	2月 9日(土)～2月10日(日)	カルメロ神父

## 京 都

### 4.待降節黙想（午後5時～午後4時）

12月2日（土）～12月3日（日） 渡辺幹夫神父

07/ 12月1日（土）～12月2日（日） 渡辺幹夫神父

### 5.聖テレーズの黙想（午後5時から午後4時まで）

07/ 9月30日（日）～10月1日（月） 伊従信子

### 6.一般のための黙想会（修道者も可能）

07/ 4月28日（土）～5月5日（土） 中川博道神父

### 7.日曜黙想会（午前10時～午後4時）

6月10日 渡辺幹夫神父

10月 7日 渡辺幹夫神父

### 6.奉獻生活者の黙想（午後5時～午前9時）

12月27日（水）～ 1月 5日（金） 渡辺幹夫神父

07/ 8月 2日（木）～ 8月11日（土） 中川博道神父

8月18日（土）～ 8月27日（月） 渡辺幹夫神父

10月20日（土）～10月29日（月） 渡辺幹夫神父

12月27日（木）～ 1月 5日（土） カルメロ神父

### 7.青年黙想会（午前10時～午後4時）

07/ 11月4日（日） カルメル宣教修道女会 中川博道神父

---

その他皆様が企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

#### \*申し込み方法

電話でも受け付けておりますが、できるだけFAXあるいはハガキでお名前と連絡先をご記入の上お申し込みください。なお、お電話でお申し込みの場合、受付が休みになっている時はすぐに返事できないこともあります。その際は、おそれいりますが後日改めてお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

宇治カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-32-7457

# 「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

## ～都会の中の一泊静修～（2007）

この会は、現代の忙しい社会の中であって、また都会の中であって、神様との静かなひとときを過ごすために企画しました。イエス様は、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたと共にいる。」（マタイ28：20）と言われました。

ともにいるイエス様とのひとときを、都会の真ん中で過ごしてみたいかでしょうか。

今年は、年間共通テーマとして、「秘跡を生きる」としました。このテーマの中で、秘跡の教義的な側面をベースにし、神との出会いの中で七つの秘跡をどのように受止め、生きることが出来るかを黙想の中で深めていく事ができるようにと願っています。

第1回	1月16日(火)	神の現存の体験	松田浩一神父 (上野毛修道院)
第2回	2月12日(月) *祝	洗礼・堅信の秘跡	中川博道神父 (宇治修道院)
第3回	3月21日(水) *祝	赦しの秘跡	新井延和神父 (宇治修道院)
第4回	4月17日(火)	聖体の秘跡	カルメロ神父 (宇治修道院)
第5回	5月15日(火)	結婚の秘跡	九里彰神父 (上野毛修道院)
第6回	6月19日(火)	叙階の秘跡	渡辺幹夫神父 (宇治修道院)
第7回	7月16日(月) *祝	カルメル山の聖母	新井延和神父 (宇治修道院)
第8回	9月11日(火)	幼いイエスの聖テレジアと秘跡	アダミニ神父 (日比野修道院)
第9回	10月16日(火)	アヴィラの聖テレジアと秘跡	Sr.ベアトリス (宇治修道院)
第10回	11月23日(金) *祝	病者の塗油	ベルナルド神父 (宇治修道院)

\* 時間 AM10:00～PM4:00

\* 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) \*聖テレジア幼稚園隣接  
(駐車場は利用できません。)

\* 費用 1,000円

\* 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当

\* 定員 約20名

\* プログラム  
10:00～ 祈り  
10:40～ 講話【1】  
12:00～12:45 昼食  
12:50～ 赦しの秘跡または短い面接  
13:30～ 講話【2】  
14:45～ ミサ  
15:30～ 茶話会  
16:00～ 終了

☆ 空いている時間に、赦しの秘跡または短い面接を受けることができます。

申し込みは、下記の住所へハガキかFAXで、氏名・住所・TELを記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

名古屋カルメル霊性センター—日静修係

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17カルメル会日比野修道院 FAX 052-671-1825

または、〒465-0058名古屋市名東区貴船3-2115 小林厚 TEL/FAX 052-701-3685

## 聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 3 京 都

12月 9日（土） パトリック オハール神父

\*日曜日の福音を深く味わい、分かち合い、解説で学びながら福音を深く心に刻む  
聖書深読黙想会に、どなたでもご参加ください。

場 所：河原町カトリック会館6階又は7階

費 用：各回 2,500 円（昼食代を含む）

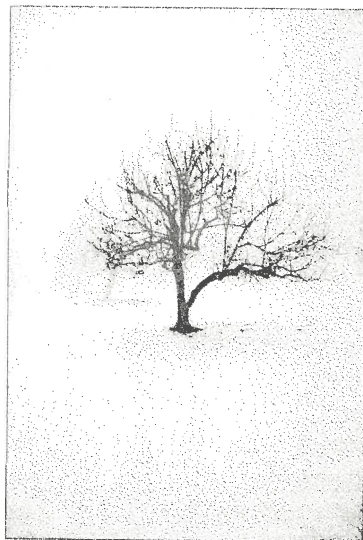
時 間：午前10時～午後4時 持参品：聖書・筆記用具・ノート

申し込み・問い合わせ （お申し込みは、各回3日前までに）

〒604-8006 京都市中京区河原町通三条上ル

河原町カトリック会館内 聖書委員会

TEL：075-211-3484 FAX：075-211-3910



## 通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

### 1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。

講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 17,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 15,950円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

### 2 有光信子さんのグループ

参加者は「素読表」（B5あるいはその半分に、記号、全、及び思いを書く。書式は自由）を送る。全員の素読表がコピーされて参加者の手元に戻る。特に指導者のようなものはないので、コメントや解説はない。

費用：1回 300円 年 10回 3,000円

送り先：〒663-8033 西宮市高木東町 31-20-504 有光信子

TEL/FAX 0798-67-8132

### 3 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrベアトリス指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srベアトリスまでご連絡下さい。

◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。

#### 聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srベアトリス

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール [carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp](mailto:carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp)



# 巡礼紀行文

—福者三位一体のエリザベット帰天百周年記念—

2006・9/14(Thr)～22(Fri)

## 福者三位一体のエリザベット

### 帰天百周年巡礼に参加して

9月15日、ディジョンの女子カルメル会修道院でシスター方とご一緒にごミサに与かり、聖人の遺物などを拝見し、その遺徳を偲びながら巡礼の第一歩が始まりました。最後はベナスクの洗礼盤遺跡の大聖堂で、暗がりの中、燃えるともし火を手に洗礼の更新をして、信、望、愛の心を強めて頂き、明日に向かって新しい歩みを踏み出しました。

九里神父様や伊従先生のお祈りやお話し、細やかなご配慮、皆様のご親切に支えられて充実した9日間を過ごさせて頂きました。ノートルダム・ド・ヴィのヴェロスクさんの信仰深い説明、本部の皆様のお心こもるおもてなしも忘れることができません。訪れた巡礼教会はすべて無名の芸術家たちの手によるものと伺い、深い感動を覚えました。幾世紀も経た今日も人々はそこでミサに与かり、聖体の前で祈っていました。

修道院で、またウェズレーのカテドラルでの主日のミサでは、典礼の美しさ、普遍教会の偉大さ、聖徒の交わりの素晴らしさに魂がゆさぶられ、天国での宴は如何ばかりかと心が駆り立てられました。

故幼きイエズスのマリー・エウジェンヌ神父様の「在俗に生きる者の使命は、教会の心臓から送り出される神の命（愛）を世界のすみずみにまで送り届けることです」というおことばに百倍の元気を頂きました。

身に余る程の恵みをお与えくださいました神様に心から感謝します。サラサラの血液になって使命を果たすことができますように、恵みを祈り求めながら励んで参りたいと存じます。皆様ほんとうにありがとうございました。

中林 智恵

### 歩くことから始まった巡礼

福者三位一体のエリザベットの「神は私のうちに、私は神のうちに」に引き込まれ参加しました。また、伊従先生の御案内があることも魅力でした。以前リジューのテレジアの旅が特別の恵みの旅でしたから。

幸いに神の恵みのうちに杖を使つての三本脚でしたが、バスに残ることもなく、皆様と御一緒にすべての巡礼地を訪ねることが出来ました。

エリザベットの歩かれたみち、入会されたカルメル修道院でのミサ、数々の教会や修道院、付司祭のビアンネ小平卓保神父様を偲ぶ聖ビアンネ教会、ノートルダム・ド・ヴィの手作りの暖かいお土産と、大変な御馳走まで頂いた素晴らしい歓迎に預かったこと、リジューのテレジアの御像が今も心に残っています。ベナスクの洗礼盤遺跡での感激の涙のうちに洗礼更新式に預かったこと、九里神父様も一緒に毎日のミサに預かれたことなど、感動のうちに巡礼が終わりました。すべてに感謝!! 感謝!!

門田 洋子



## ディジョンにて

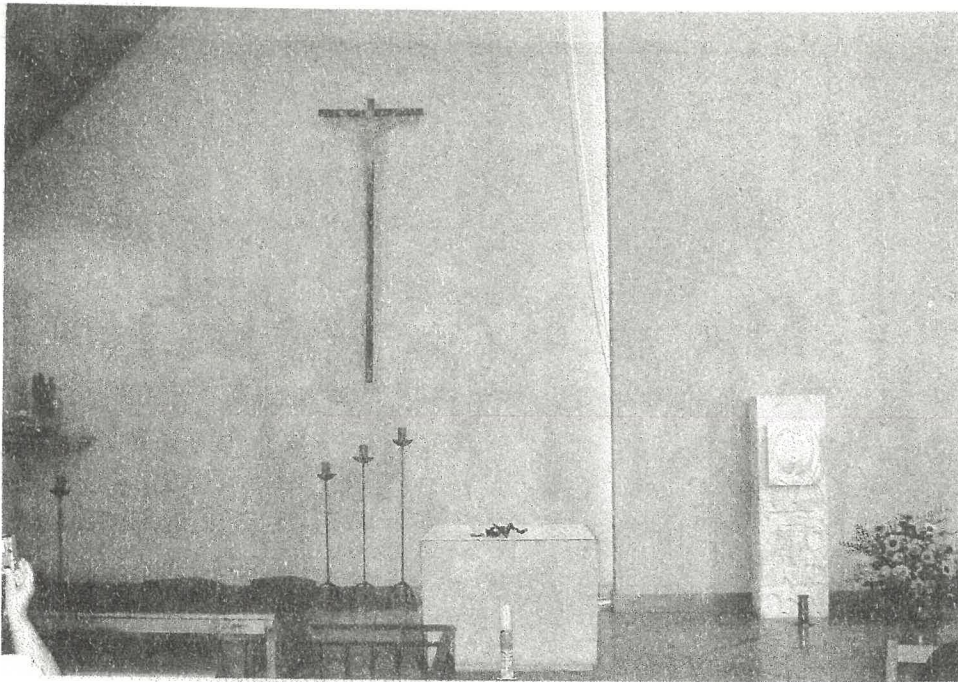
ディジョン中心地からバスにて田園地帯を通り抜け山に向かって行くと、小雨と霧の中に女子カルメル修道院がありました。

そこには、エリザベットの遺品と写真とが展示してあり、写真の中からエリザベットが愛され大切に育てられた様子が伝わってきました。

エリザベットが眺めていたという十字架が祭壇の上に置かれ、「三位一体のエリザベット」の御ミサに参加しました。シスター達の美しい賛美歌、共に祈り、天国にいるような幸せにつつまれました。

祈りのうちに山を下り、エリザベットを感じたく旧カルメル修道院跡地から聖ミッシェル教会まで、皆で沈黙のうちに祈りながら歩き、エリザベットを思い巡らし肌で感じられたことは大きなお恵みでした。

田中 洋子



↑ 現ディジョン・女子カルメル会聖堂、祭壇上はエリザベット誓願の十字架。



## ディジョンの香り

昨年の初夏に続く再度のフランスの香りも懐かしく、ディジョンの地を踏むことができました。女子カルメルは今は郊外にあり、ミサの時修女方の美しい声の響きにしばし聖女エリザベットへの思いに浸りました。ミサの後、かつて聖女が過ごされた地を訪れ、残った壁を見ながら、皆でひと時を過ごしました。ここでもっと時間をとり祈らせて欲しかったのは私一人でしょうか。

帰国した今もその地やその壁が私の目に焼きついて、心に呼びかけて下さる。ことに、朝の目覚めの時に。サムエルが呼びかけられたように。この恵を大切に、主のうちにこれからの生活を委ねて巡礼を続けて行きます。

隈河 和代



↑旧カルメル修院の石塀(エリザベット在会時のもの)

今年、1880年フランスのブルージュに生まれ、1906年11月9日26歳の若さで亡くなられたカルメルの福者三位一体のエリザベット帰天百周年に当たり、カルメル会ではフランスのディジョンへの巡礼の旅を企画して下さいました。

私が初めて三位一体のエリザベットに出会ったのは、20数年前ある神父様がすすめてくださった「いのちの泉へ」という本からでした。それは、三位一体のエリザベット生誕100年の数年後1984年の列福を祝して、伊従先生によって訳されたものでした。

更に今回帰天100周年に当たり、やはり伊従先生により出版された「神は私のうちに、私は神のうちに」の副題にもあるように、私の一生に太陽がさんと注いでいたのは「心の深みに住まわれる神」と親しくしていたからでしたと。

まさにそれ以来、私の生活は「聖書」や秘せきの中でのキリストとこの「命の泉」の私のうちに住まわれる神を意識したものになっていきました。

末の娘の霊名に三位一体のエリザベットのお名前をいただき、日々その中からひびいてくる命の言葉によって、どんどんキリストへと引っ張られていくのを感じておりました。今までさまざまな巡礼にも、あまり関心を示さなかった私ですが、このエリザベット帰天100周年の巡礼には、御旨ならば…と心が動かされていました。

しかし、私一人が良い思いをしたのでは家族に申し訳ないと迷っていた時、娘達からの言葉が心に響きました。「お母さんの使命はネ、この巡礼に参加して、真近に触れたそこでの体験やエリザベットの残してくれた信仰を持ち帰って、皆に伝えることだと思うよ。お土産話楽しみにしながら祈っているからね。」と言われ、本当に観光ではなく、三位一体のエリザベットだけを見つめてこの帰天100周年をフランスのシスター方と共に祝わせていただこうと思いました。

フランスでは三位一体のエリザベットが祈りながら歩いたであろう中庭の並木道、エリザベットの写真のバックに残っているつたのからまったひっそりとした石塀、栄光の賛美（天国での聖女の新しい名前）となって天へ迎えられた時の修室、ベッド等、そしてキリストの内にエリザベットが栄光の賛美となって現存している三位一体のエリザベットのカルメル修道会、更にそこでのシスター方との共同ミサ（天使のような歌声）、エリザベット誓願の十字架への崇敬など。

そして今、一修道女の不治の病の中にも神をほめたたえ、苦痛がまず毎に私の幸福は深まっていき、この十字架を担いながらも、もう半ば天国にいるように思われますとのエリザベットの言葉を改めて思いめぐらしております。これから巡礼後も、巡礼の時いただいた光に照らされて歩んで行きたいと思っております。

私市 一恵

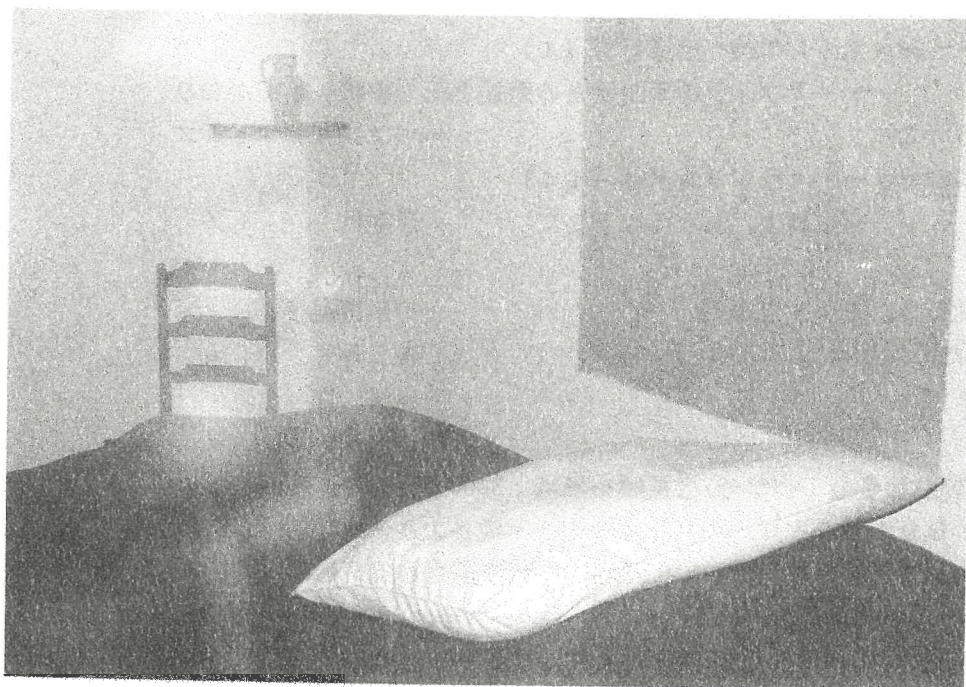
## エリザベットが遺したもの

エリザベット帰天100周年を記念する巡礼の旅第一日目、一行28名はまずディジョンの郊外にある女子カルメル修道院を訪れました。旧修道院から移されたエリザベットの修室や遺品の中、エリザベットがこの世を去るとき握りしめていた誓願の十字架がありました。シスター方とごいっしょに与かったミサ中、この十字架は祭だんに置かれ、ミサの後私たちは皆それに直接触れて礼拝させて頂きました。印象深く、心に残ることでした。

ディジョンの町中にあった当時のカルメル修道院は、現在は一般のマンションとなっていますが、その敷地内にはエリザベットの写真の背後に写っている修道院の塀や樹木などが残されています。エリザベットを偲びながら、各自祈りながら、沈黙のうちに散策しました。

この巡礼中ずっと、エリザベットは私たちに、神は遠くにいらっしゃるのではなく、すぐ近く、私たちの心の内に住まわれ、私たちは平凡な日常生活の中で、ふつうのことをしながら、自分の人生の一瞬一瞬を神との親しさに向けて生きていくということを、あらためて心に深く滲みわたらせてくださいました。

永瀬 澄子



↑エリザベットの修室

## カルメル会出版物のご案内

雑誌「カルメル」(2006年特集号)

### 「二十一世紀の人々へのメッセージ」

#### 福者三位一体のエリザベットの霊性」

- エリザベットとともに生きる関わりのお秘 …伊従信子  
歴史の中の三位一体のエリザベット …大瀬高司  
三位一体のエリザベットの生涯とメッセージにこだまする聖書の言葉  
…ベアトリス・ディクナ  
三位一体のエリザベットと福音宣教 …北村喜朗  
三位一体のエリザベットが示す平和と幸福 …九里 彰

雑誌「カルメル」No. 322 (2006年秋号)

### 「今日の霊性」

#### 聖書

聖霊の光の下に —— 聖書と教父 (3) …高橋正行

#### カルメルの諸聖人

信仰による照らし —— 第三講話(第三部) …フェデリコ・ルイス

アヴィラの聖テレジアのとらえた「謙遜」の意味 (3)

—— 『靈魂の城』を中心にして …九里 彰

三位一体のエリザベット帰天百周年にあたって …伊従信子

—— (3) 最後の日々

エデット・シュタインの神への道行き (1)

—— アヴィラのテレサとの邂逅とその影響…須沢かおり

愛で生きる (2) …ペトロ・アロイジオ

幼きイエスのマリー・エウジェヌ師 (14)

—— 神よ、あなたはどこに …伊従信子

#### 霊性一般

【靈的講話】今、光を生きる …中川博道

“生きるために死ぬ” ということ …森 みさ

愛の断章 (1) …奥村一郎

※年5冊(春夏秋冬号+特集号)会員頒布価格：3000円(送料込み)

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会

(どなたでも購入できます。電話でのご連絡は、事務担当竹田：Tel03(5706)8356迄)

## 待望の再販

『自叙伝』(サンパウロ社)

『創立史』・『完徳の道』・『靈魂の城』(ドン・ボスコ社)

## 諸所の企画案内



CWC (キリスト者婦人の集い)

心のいほり

リーゼンフーバー神父キリスト教講座

真命山靈性交流センター

マリアのみ心会

ノートルダム・ド・ヴィ

内家面全の祝賀



(の葉の人顔昔イスリキ) のWの

のEの心

廻轉時イスリキ父時一ハ一てくサ一リ

一マくサ新交封雲山命真

会心るのてリマ

トマ・オ・ムセハイ一

# 諸所の企画案内

## 【CWC 講話会】

「キリスト者婦人の集い」主催 講師：九里 彰神父（カルメル会）  
場所：真生会館4階第8会議室 時間：午前10時30分～12時  
対象：キリスト教に関心のある方はどなたでも。

## 聖書深読入門

原則として第二火曜日

### 2006年

12月12日（火） この日は簡単に聖書深読を行い、その後、感謝ミサ。

### 2007年

1月 9日（火）

2月13日（火）

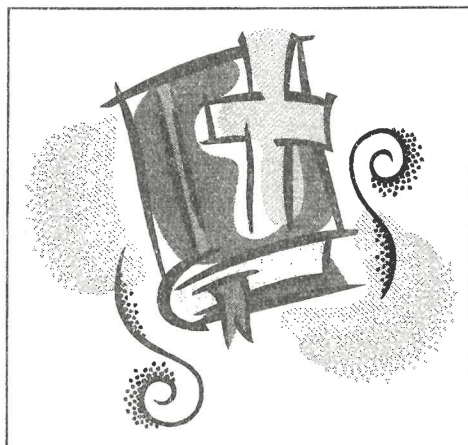
3月13日（火）

4月10日（火）

5月 8日（火）

6月12日（火）

7月10日（火）



8月9月はお休みいたします。

まずその日の聖書箇所を「輪読」し、沈黙の内に「素読」。その後、皆で「合読」（分かち合い）をし、講師の「解説」があります。「合読」での発言はまったく自由で、パスされても結構です。

## 内観黙想の予定表

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意下さい。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み6万円です。

◎ファックス・手紙でセンターに問い合わせて下さい。電話では取次いでおりません。

申し込みは会場予約準備がありますので、10日前までに完了をお願いします。

◎〒572-0001大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観瞑想センター」

藤原神父 FAX 072-802-5026

予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。



### ★ 2006年度予定 ★

<b>F4</b>	06・09・17 (日) 2時から	09・23 (土) 2時まで	横浜・戸塚・聖母の園	了
<b>B2</b>	06・10・22 (日) 2時から	10・28 (土) 2時まで	札幌・厚別・ベネディクト	了
<b>F5</b>	06・11・12 (日) 2時から	11・18 (土) 2時まで	横浜・戸塚・聖母の園	了
<b>P4</b>	06・11・26 (日) 2時から	12・02 (土) 2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会	了

### ★ 2007年度(決定しているものだけ) ★

<b>K1</b>	07・01・21 (日) 4時から	01・27 (土) 2時まで	東京・小金井・聖霊会
<b>B1</b>	07・01・29 (月) 2時から	02・04 (日) 2時まで	札幌・厚別・ベネディクト
<b>Y1</b>	07・02・10 (土) 2時から	02・16 (金) 2時まで	神戸・須磨ヨハネ
<b>P1</b>	07・02・22 (木) 2時から	02・28 (水) 2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
<b>N1</b>	07・03・04 (日) 2時から	03・10 (土) 2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム
<b>K2</b>	07・03・18 (日) 4時から	03・24 (土) 2時まで	東京・小金井・聖霊会
<b>M1</b>	07・05・17 (木) 2時から	05・23 (水) 2時まで	盛岡・白百合・シャルトル
<b>K3</b>	07・06・03 (日) 4時から	06・09 (土) 2時まで	東京・小金井・聖霊会
<b>P2</b>	07・06・17 (日) 2時から	06・23 (土) 2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
<b>N2</b>	07・06・26 (火) 2時から	07・02 (月) 2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム
<b>Y2</b>	07・07・22 (日) 2時から	07・28 (土) 2時まで	神戸・須磨・ヨハネ
<b>P2</b>	07・08・10 (金) 2時から	08・16 (木) 2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
<b>K4</b>	07・09・09 (日) 4時から	09・15 (土) 2時まで	東京・小金井・聖霊会
<b>B2</b>	07・10・17 (水) 2時から	10・23 (火) 2時まで	札幌・厚別・ベネディクト
<b>N3</b>	07・11・02 (金) 2時から	11・08 (木) 2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム
<b>K5</b>	07・11・11 (日) 4時から	11・17 (土) 2時まで	東京・小金井・聖霊会
<b>P3</b>	07・12・03 (月) 2時から	12・09 (日) 2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会



## リーゼンフーバー講座・集い クリスマス会のご案内

秋も深まり紅葉の美しい季節となりました。さて、年末年始のプログラムのご案内です。今年も一緒にクリスマスを楽しみましょう。皆様にお会いできるのを楽しみにしております。

### 【クリスマス会のミサとパーティー】 12/16(土)

ミサ：17時～ 聖イグナチオ教会マリア中聖堂

パーティー 要申込み：18時～ 聖イグナチオ教会信徒会館1階ヨセフホール

### 【クリスマス会のミサ】 12/23(祝) 14時～ (入門・志願・洗礼式含)

上智大学内S.J.ハウス隣クルトゥルハイム2階聖堂

### 【入門講座】 毎週金曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール

- 了 10/27 信仰の決断—支えられて生きる
- 了 11/10 ミサ祭儀—神への奉仕と生活の糧
- 了 11/17 自己実現と神の意志—生き方の規範
- 了 11/24 人間の弱さ—罪とは何か
- 12/1 恵みとゆるし—神の憐れみを受ける
- 12/8 愛の心—キリスト教の本質
- 12/15 隣人愛—他人のうちにイエスに出会う
- 12/22 希望を持つ勇氣—未来に向かって歩む
- 1/12 霊の動き—福音による生き方



### 【理解講座】 第1・第3・第5 火曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール

- 了 10/31 和解する愛—弟子に心を開くイエス
- 了 11/7 受難による救い—イエスの救済的役割
- 了 11/21 死からの命—復活の認識・経験・理解
- 12/5 聖霊の働き—神の内的現存
- 12/19 三位一体の神—救いの構造から神内の存在へ
- 1/16 御子の受肉—神の子と人の子

### 【会社帰りの黙想】 毎月第2・第4 火曜日 18時45分～20時

【クリスマス会の黙想】 12/25(月) ※ 12/26休み 聖イグナチオ教会マリア中聖堂

### 【祈りの集い】 講話・黙想・ミサ 下記の土曜日 13時30分～16時

了 11/25、12/9、1/13、2/3、3/10 上智大学内S.J.ハウス第5会議室

【ロザリオの祈り】 同日16時15分～16時50分 上智大学内クルトゥルハイム1階右側小聖堂

### 【水曜日のミサ】 ミサ：17時10分～18時、黙想：18時～18時30分

上智大学内クルトゥルハイム1階右側小聖堂 ※11/1 休み

### 【黙想会】 12/2(土)10時～12/3(日)15時 東村山 2/24(土)10時～2/25(日)15時 上石神井 } 要申込み

### 【坐禅会】 月曜日 17時20分～20時10分、木曜日 18時～20時30分 上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋

### 【問い合わせ・クラス・リーゼンフーバー神父 (上智大学文学部哲学科教授)



連絡先】 〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J.ハウス

TEL 03-3238-5124(直通)、5111(伝言)

FAX 03-3238-5056

<http://www.anatomists.net/K-Riesenhuber/>



# 生命山の靈性

## 真命山

2006 年度のご案内

祈りの集い(毎月 午前10時～午後3時)

年間テーマ:

三位一体の唯一の神と共に生きる

### 自然

神はすべてを作り、  
人の手に委ねられた

陽の昇るところから  
陽の沈むところまで

### 祈り

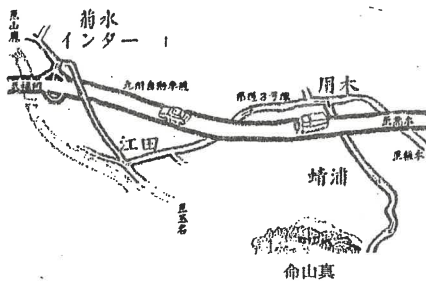
### 静けさ

沈黙の中に神の  
言葉を聞こう

信仰体験を分かっ

### 交わり

- 1月12日 3人の旅人の姿をもって現れた神 了
- 2月 9日 イエス様をとおして現れる三位一体の神 了
- 3月 9日 ルプロフの三位一体の神 了
- 4月 6日 父である神 了
- 5月11日 子である神 了
- 6月 8日 聖霊である神 了
- 7月13日 ルプロフのイコンの前で祈る 了
- 9月14日 父と子と聖霊の名による洗礼 了
- 10月12日 三位一体から御聖体の神秘へ 了
- 11月 9日 三位一体の唯一の神と共に生きる 了
- 12月14日 三位一体と降誕祭の神秘



\* 個人またはグループでの黙想会や研修会も、  
予約をとっていただければ、歓迎いたします。

865-0133 熊本県玉名郡菊水町埴浦 1391-7  
☎ 0968-85-3100; fax 0968-85-3186  
e-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

## マリアの御心会

### 黙想会プログラム

#### 「来て、見なさい」

- 4月23日(日) 「キリストのいのち」 了  
5月28日(日) 「神の望みを心に留めたマリア」了  
6月25日(日) 「私たちのために裂かれたイエスの体」了  
7月23日(日) 「人々の中におられるイエス」了  
9月24日(日) 「神の愛に生きる」了  
10月22日(日) 「キリストが私の喜び」了  
11月26日(日) 「王であるキリストの呼びかけ」了  
12月17日(日) 「イエスは世の光」

'07/

- 1月28日(日) 「イエスのいやし」  
2月24日(土)～25日(日) 「イエスの渴き」上石神井黙想の家  
3月25日(日) 「赦すイエス」

結婚・修道生活・独身生活を選定したい方

自分の道を見つけたい、祈り考えたい方のために開かれています。

対象；20代30代の独身女性

講師、時間などが月によって違いますのでお問い合わせください。

場所；〒160-0012 東京都新宿区南元町 6-2

JR 信濃町下車徒歩2分

問い合わせ・申し込み TEL 03-3351-0297 FAX 03-3353-8089

E-mail [midorif@jca.apc.org](mailto:midorif@jca.apc.org) <http://www.meisen.org.org/maria>

# いのちの泉へ

すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を養うための講話と  
沈黙の祈りで構成された集いです。

カルメルの靈性を、より深めたい方のグループと、  
若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

2006年 12月16日(土)

十字架の聖ヨハネ

講話 伊従信子 ・ 片山はるひ

午後2時より 講話・祈り・分かち合い

午後5時半 ミサ(参加自由です)

参加費 200円



お申し込み・問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail jndv-jp@r2.dion.ne.jp

(メールアドレスが変更になりました。)

カルメル会の靈性を受け継ぐ ノートルダム・ド・ヴィ (いのちの聖母会) は、  
現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、  
祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

## マリアの御心会

### 黙想会プログラム

#### 「来て、見なさい」

- 4月23日(日) 「キリストのいのち」 了  
5月28日(日) 「神の望みを心に留めたマリア」了  
6月25日(日) 「私たちのために裂かれたイエスの体」了  
7月23日(日) 「人々の中におられるイエス」了  
9月24日(日) 「神の愛に生きる」了  
10月22日(日) 「キリストが私の喜び」了  
11月26日(日) 「王であるキリストの呼びかけ」了  
12月17日(日) 「イエスは世の光」

'07/

- 1月28日(日) 「イエスのいやし」  
2月24日(土)～25日(日) 「イエスの渇き」上石神井黙想の家  
3月25日(日) 「赦すイエス」

結婚・修道生活・独身生活を選定したい方

自分の道を見つけたい、祈り考えたい方のために開かれています。

対象；20代30代の独身女性

講師、時間などが月によって違いますのでお問い合わせください。

場所；〒160-0012 東京都新宿区南元町 6-2

JR 信濃町下車徒歩2分

問い合わせ・申し込み TEL 03-3351-0297 FAX 03-3353-8089

E-mail [midorif@jca.apc.org](mailto:midorif@jca.apc.org) <http://www.meisen.org.org/maria>

# いのちの泉へ

すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を養うための講話と  
沈黙の祈りで構成された集いです。

カルメルの靈性を、より深めたい方のグループと、  
若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

2006年 12月16日(土)

十字架の聖ヨハネ

講話 伊従信子 ・ 片山はるひ

午後2時より 講話・祈り・分かち合い

午後5時半 ミサ(参加自由です)

参加費 200円



お申し込み・問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail [jndv-jp@r2.dion.ne.jp](mailto:jndv-jp@r2.dion.ne.jp)

(メールアドレスが変更になりました。)

カルメル会の靈性を受け継ぐ ノートルダム・ド・ヴィ (いのちの聖母会) は、  
現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、  
祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

# 近刊紹介

## \* 「神はわたしのうちに、わたしは神のうちに」

三位一体のエリザベットとともに生きる

(三位一体のエリザベット帰天100周年記念出版)

伊従信子著・聖母文庫：聖母の騎士社・¥525（196頁）



## \* 「祈りの道」「いのちの道」

写真と文 伊従信子・サンパウロ・¥840（48頁）

日々の生活に潤いをもたらす、珠玉の言葉と写真を集めた2冊。



帰天100周年記念に贈る、  
福者三位一体のエリザベトの生涯！

三位一体のエリザベト  
神は私のうちに  
私は神のうちに



菊地多嘉子 著

ドン・ボスコ社

## 三位一体のエリザベト

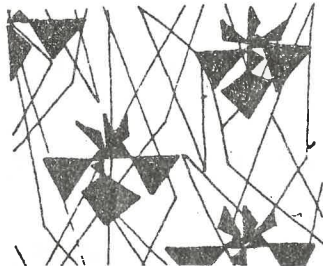
神は私のうちに 私は神のうちに

Sr. 菊地多嘉子が、沈黙の生活の中からわきあがるエリザベトの靈性の美しさを記す。

「神秘中の神秘である三位一体に引き込まれていく」一修道女の生涯。

菊地多嘉子著 64頁 新書判 定価（本体500円＋税）  
ドン・ボスコ社

10冊以上20%割引！





## 投稿募集

テーマ：「キリスト教との最初の出会い」

仏教国である日本において、読者の皆さまがどのようにしてキリスト教に出会ったか、その最初のきっかけ、エピソードなどをB5で2枚前後に簡単にまとめて送ってください。求道者の方々にも興味深いことと思われま

- \* 寄稿連絡は、九里 彰神父宛にお願いいたします。

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 カルメル会修道院

Tel (03)3704-2171 Fax (03)3704-1764

## 投稿規程

- \* 締め切り：原則的に毎月10日まで
- \* 原稿サイズ：**B5** 左右の余白：20mm
- \* 原稿はできる限り**ワープロかパソコン**でおねがいします。  
**手書きの場合**は、パソコンで打ち直しのため掲載が遅れる場合も出てきます。
- \* E-mailでの投稿は、添付ファイルで、seminary@carmel-monastery.jp宛てにお願いします。
- \* 「心の泉」のコーナーについては、小題をつけて。
- \* 「諸所の企画」のコーナーについては、
  - ①主催するグループ名もしくは個人名を明記。
  - ②活動内容。例えば、「黙想会」、「祈りの集い」等。
  - ③月間、あるいは年間の具体的計画。連絡先等。

「霊性センターニュース」をご希望の方は、

下記まで、郵送ご希望の月数分×220円を**現金**で送ってください。

佐々木茂子 〒230-0074 横浜市鶴見区北寺尾 4-21-11

Tel (045) 575-5722

## 献金へのお願い

「霊性センターニュース」は現在、ご希望の方へ無料で配付しております。コピー代、紙代、印刷代等、諸経費はすべてカルメル修道会が負担しております。読者のみなさまのご理解、ご協力をお願いいたします。

献金される方は、下記の口座へお振込みください。

郵便番号口座：00110-4-297250

加入者名：カルメル霊性センターニュース

通信欄に「霊性センターニュースへの献金」とご記入ください。

振込用紙が必要な方は、ご請求下さい。お送りいたします。



## 編集後記

私には小さい時から、出かける間際まで準備などをしていて、かろうじて予定の時間に間に合うという妙な習性がしっかりと身につけている。これは、すぐ走って行けば間に合う距離に幼稚園や小学校があったからではないかと思われる。ハーハーと、息せき切って駆け込み、間一髪、セーフ！を繰り返していたが、不思議に遅刻したことはほとんどない。間に合っていたからよかったものの、ハラハラする、手？に汗を握る毎日であったことは確かである。

大人になってもやはりこの習性は残るもので、結婚式など何かの式に出席するとなると、悲惨である。本人は余裕を持って出たつもりが、時間がなくなり、最後は駆け出すという始末で、ほとんど『走れメロス』のようになる。「路行く人を押しのけ、跳ねとばし、メロスは黒い風のように走った。野原で酒宴の、その宴席のまっただ中を駆け抜け、酒宴の人たちを仰天させ、犬を蹴とばし、小川を飛び越え、少しづつ沈んでゆく太陽の、十倍も早く走った」。かの邪智暴虐の王に、「愛と誠の力を、今こそ知らせてやるがよい。走れ！メロス」といった具合である。

先日も、真生会館で講座があったが、準備に時間がかかり、いつもように、時間ぎりぎりとなった。真生会館にはほぼ時間通りにたどりついたのだが、講座の部屋が前回から変更になっていた。掲示板に私の名前を見つけ、その横の8という数字が目につき、会場は8階とエレベーターに飛び込む。ところが何とエレベーターは6階までしかないのである。この後は、階段を昇るしかないと、階段を探し、勢いよく駆け上ると、急に視界が開け、何とそこは屋上。それ以上、昇れるような所はどこにもない。後は天に昇るばかりである。仕方なく下へ降りてゆき、4階まで来ると、私の講座の案内板が出ていた。入口には「第8会議室」と書いてあった。

みなさん、余裕をもって家を出しましょう。

(P.九里)



